

# JTP株式会社

## DX推進の取り組み

中期経営計画とその実現に向けたDX推進への戦略

JTP株式会社



© JTP Co., Ltd. All Rights Reserved.

## はじめに - 本資料の目的

JTPは、中期経営計画「これまでの技術集団から”事業変革とユーザ企業の自走”を促す「業界随一のイネイブラー」となる」の実現に向け、デジタルトランスフォーメーション(DX)に向けた戦略を推進しております。

本資料では、次の取り組みについて紹介し、DX推進への戦略を示しています。

- 企業理念とJTPが目指す姿「イネイブラー」とは
- 中期経営計画とDX推進への施策
- 戦略に基づく各施策の取り組み



## JTPが目指す方向性 ～企業理念、中期経営計画、DX推進への戦略～

# 企業理念

## Mission / ミッション

### Connect to the Future

JTPが掲げるミッション「Connect to the Future」には、  
「お客様が描く未来を、私たちが技術で繋いでいく」という思いが込められています。  
私たちは変化し続ける世の中で、お客様の描く未来を実現可能にする「**イネイブラー**」を目指します。

## Vision / ビジョン

**私たちは  
自由な発想と決断力をもって  
お客様と共に進化する未来を創ります**

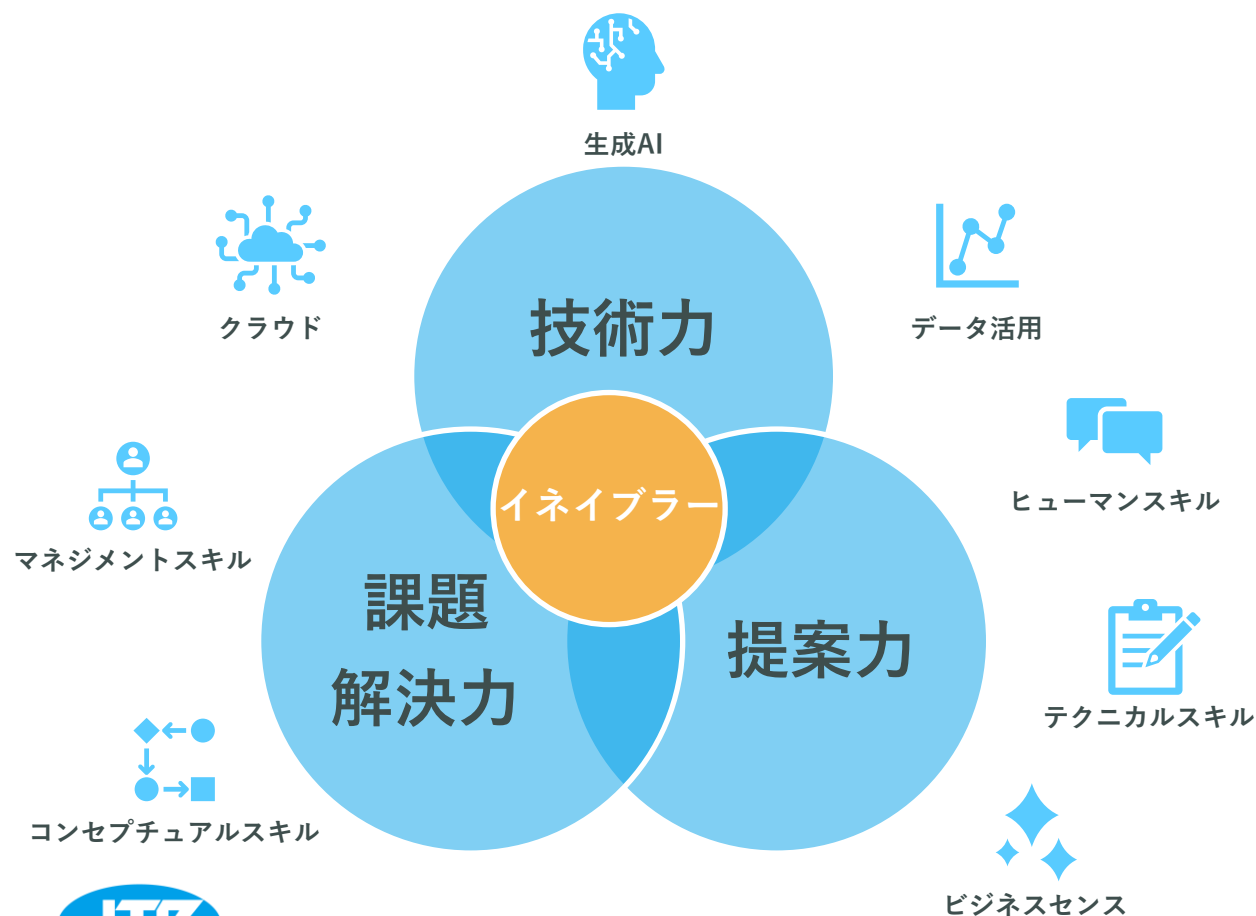
「お客様が思い描き目指す未来を、共に創りたい。」そういった思いに、  
全社員一人ひとりが、柔軟で多彩な「発想」、  
スピード感と多角的な視点を持つプロフェッショナルとしての「決断力」をもって挑む決意を、  
このビジョンに込めました。



JTPが目指す姿

## イネイブラーとは

豊かな対話力と思考力を持ち、  
お客様の実現したいことを、技術を活用して解決することができる人財 / 組織



### 個人としての イネイブラー

お客様との対話を通して  
課題を多角的に捉え、  
解決に導くことができる



### 組織としての イネイブラー

得意な部分を発揮あって  
チームで解決できる



# 第二次中期経営計画とDX推進への戦略

## 中期経営計画 2030年に目指す姿

これまでの技術集団から”事業変革とユーザ企業の自走”を促す  
「業界随一のイネイブラー」となる



イネイブラーとしてお客様に寄り添い、  
DX推進に貢献



# お客様のDX推進を実現するための事業

## ライフサイエンス

- ICTを活用した遠隔医療関連、医療従事者負担軽減に繋がるサービスを産学連携による共同開発
- 法規制対応コンサルティング
- ライフサイエンス分野の未開拓領域への挑戦

非ハードウェアサービス 売上構成率**50%以上**



Kyrios

## システム運用

- 高度化するセキュリティ要件に対応したシステム運用
- 労働集約型事業からストックビジネス(Kyrios)のビジネスモデルの加速
- DX型プラットフォームの運用支援(次世代システム運用)

次世代システム運用事業 売上比率**50%以上**

## システム構築

- DX型プラットフォームの構築支援
- コンサルティング領域へ挑戦とコンサル(イネイブラー)の育成

ユーザー顧客との直接取引売上構成比**50%以上**



イネイブラーとして  
DXを推進

## 人財育成



- ラーニングプラットフォーム(Learning Booster)の拡販
- 人財育成コンサルティングサービス開発

ラーニングプラットフォーム利用者数累計**3万人以上**

## セキュリティ

- セキュリティソリューションの拡販
- マルチクラウドセキュリティのコンサルティング事業化

内部脅威対策分野で**No.1**のスペシャリスト集団に

## DX開発



- 業界に特化したThirdAIの派生サービスリリース
- 最新技術の積極的な評価・活用
- 顧客へのAI実装を通じて得たノウハウや経験を自社サービスであるThirdAIに還元(更なる進化)

最新技術活用のサービスリリースを年間**4本**実施



© JTP Co., Ltd. All Rights Reserved.

枠内：2030年の到達目標

各事業の詳細

2024年3月期-2027年3月期 第2次中期経営計画資料

# 第二次中期経営計画とDX推進への戦略

## 中期経営計画 2030年に目指す姿

これまでの技術集団から”事業変革とユーザ企業の自走”を促す  
「業界随一のイネイブラー」となる

### DX推進への戦略



#### 戦略①

「ユーザーが描く未来」を  
サポートする  
イネイブラー人財の育成



#### 戦略②

事業で培った技術と  
知見の応用による  
ビジネス拡大



#### 戦略③

イノベーションと  
価値創出のための  
環境整備



## DX推進への施策

# DX推進への戦略と施策



施策1

クラウド人財育成

施策2

イネイブラー人財育成



施策3

生成AI活用

施策4

データ活用支援サービスの創出



施策5

全社共通プラットフォーム

施策6

マルチアカウント統制 <セキュリティ>

施策7

プラットフォームエンジニアリング <共通開発基盤>

戦略① 「ユーザーが描く未来」をサポートするイネイブラー人財の育成

## 施策1 クラウド人財育成

DXコンサルティング/データドリブン経営導入を担うための、デジタルスキルの向上を全社で取り組む

### “〇〇祭り”

JTPは以前からトレンドの技術に向かって、全社を挙げてその習得を目指す文化があります。



### 2023 AWS祭り

AWSプロフェッショナル人材  
の育成 150名



### 2024 データエンジニア祭り

マルチクラウド  
データエンジニア育成 50名



### 2025 データ活用祭り

データ分析人材 50名

### DX実現に向け、データエンジニアリング領域の分野を強化



顧客に最適な  
サービス選定



基盤の設計構築運用



AI活用との連携



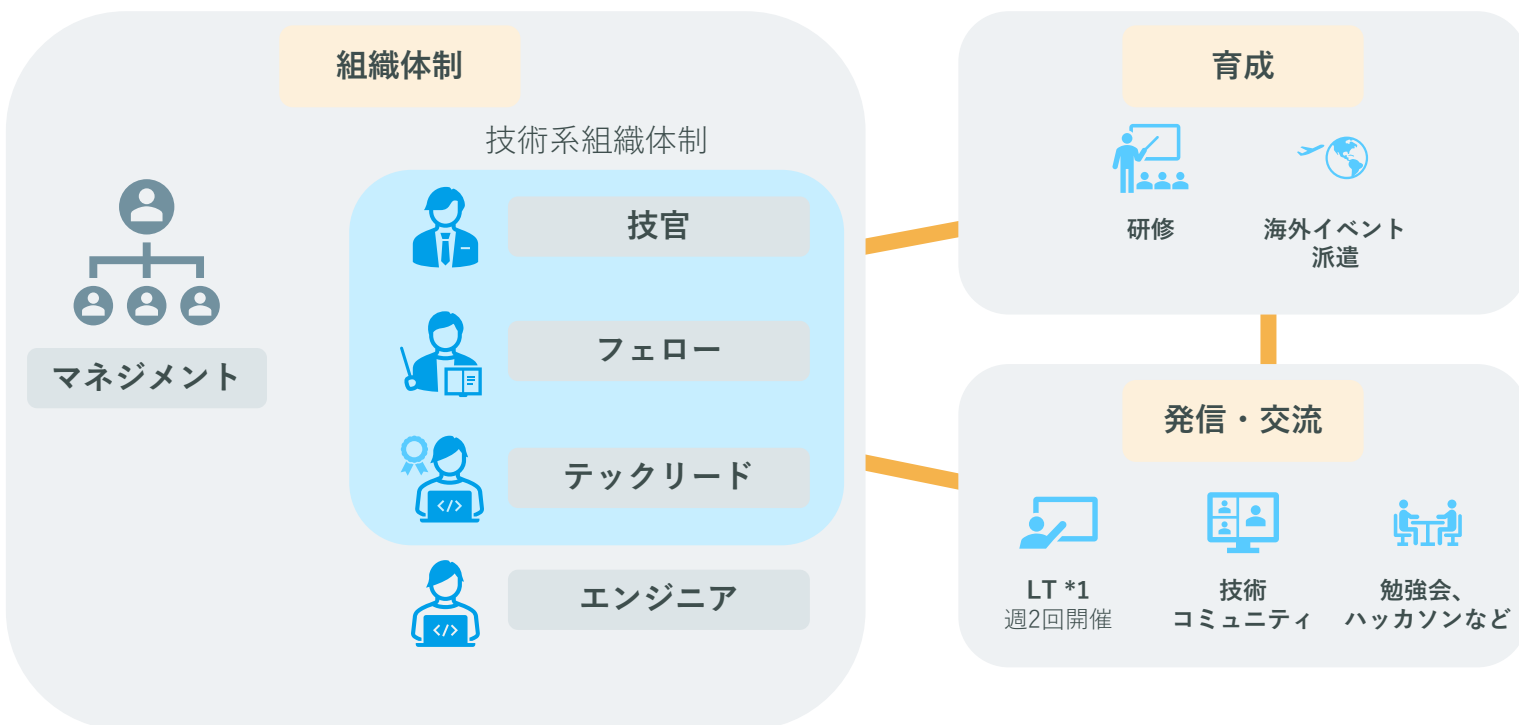
データマネジメント、  
セキュリティ

# 戦略① 「ユーザーが描く未来」をサポートするイネイブラー人財の育成

## 施策1 クラウド人財育成 <JTPの技術育成体制>

社内の技術力を向上し続けるための仕組みと文化を醸成

### 組織体制と社内活動の相乗効果



技官をトップとするマネジメントとは独立した技術系の組織体制や、多様な育成の機会、またフェローをはじめとする社員主導の技術イベントを頻繁に開催。

### 技術方針 / ライセンスデザイン表

技術方針



ライセンスデザイン表



技術方針を毎年策定し、方針に基づいた資格(ライセンス)取得に向けた指針を発表。全社員でその技術習得に向けて取り組みを行い、研修の機会や勉強会の開催がされます。

### ライセンス手当 (インセンティブ)



資格取得に際し、受験料と、ライセンスデザイン表に基づき資格のレベルに応じた、ライセンス手当を毎月支給し、賞与においても評価。技術習得を続けられるサポートをしています。

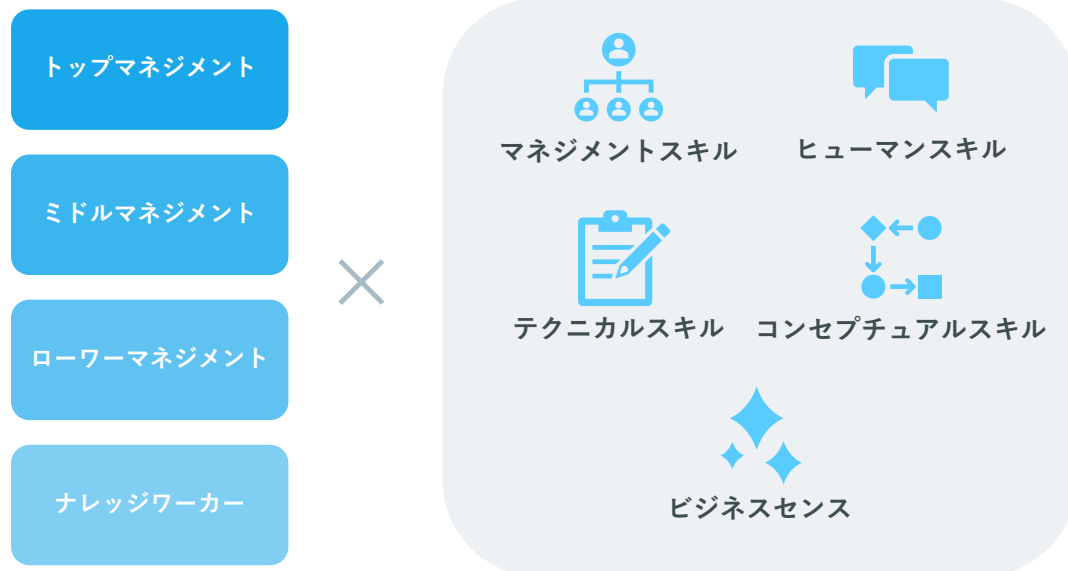


戦略① 「ユーザーが描く未来」をサポートするイネイブラー人財の育成

## 施策2 イネイブラー人財育成

イネイブラーに求められるスキルを可視化、基礎研修やワークショップなどスキル習得の機会を設定

### スキルの定義



階層別に求められるスキルを可視化、現在の分布を明確化

### スキル習得の機会設定



- 3年間の基礎研修でスキル習得とビジネスセンスを磨く
- 階層別のWSでより実践的なスキル習得の機会を設定

### イネイブラー人財へ

 **コンサルタント**  
育成目標：20名

企業が持つ潜在的なビジネスの課題をITで解決に導くための設計業務を担当。IT知識に加えて業界に精通した深い知見と経験を有する  
(IT知見+業務コンサルタント)

 **PM(プロジェクトマネージャー)**  
育成目標：150名

顧客から要望を受けたものを理解し、プロジェクトの成功を導くために広範囲の仕事を行う  
(プロジェクトの品質、コスト、納期を守り推進する実行役)

## 施策3 生成AI活用 <AIサービス Third AIの社内活用>

生成AIを日常的に使うことを習慣にして、次のより踏み込んだ活用へ

生成AIを活用する習慣をつける



2023年  
OpenAI Best Prompt Award開催  
業務に活かせるプロンプトを  
募集する社内コンテストを開催



利用率が向上

生成AIの対するハードルが下がり、  
業務で活用する文化ができた

社内で利用しナレッジを蓄積



ファイル

- ・ 製品マニュアル
- ・ 法令データ
- etc.

取り込み



解答を生成

社内ユースケース



コード作成のアシスタント/チェッカー



膨大な法令データの検索



お問合せ対応の際のマニュアル検索



研修時の問題作成



新規技術分野習得の際の学習アシスタント

ナレッジを活用し、  
発展的なデータ活用へ



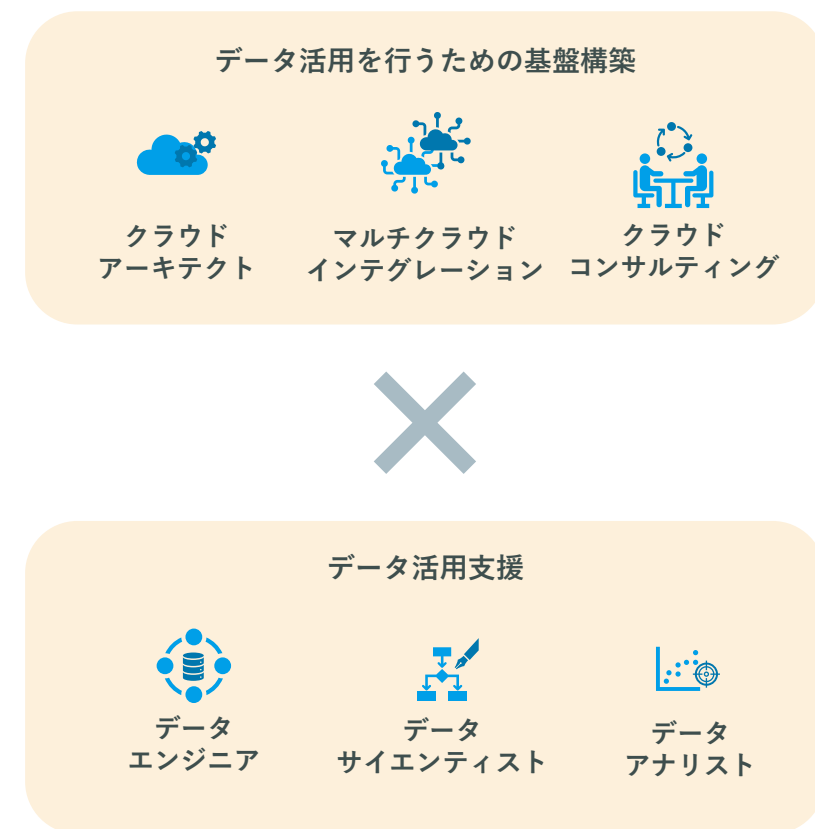
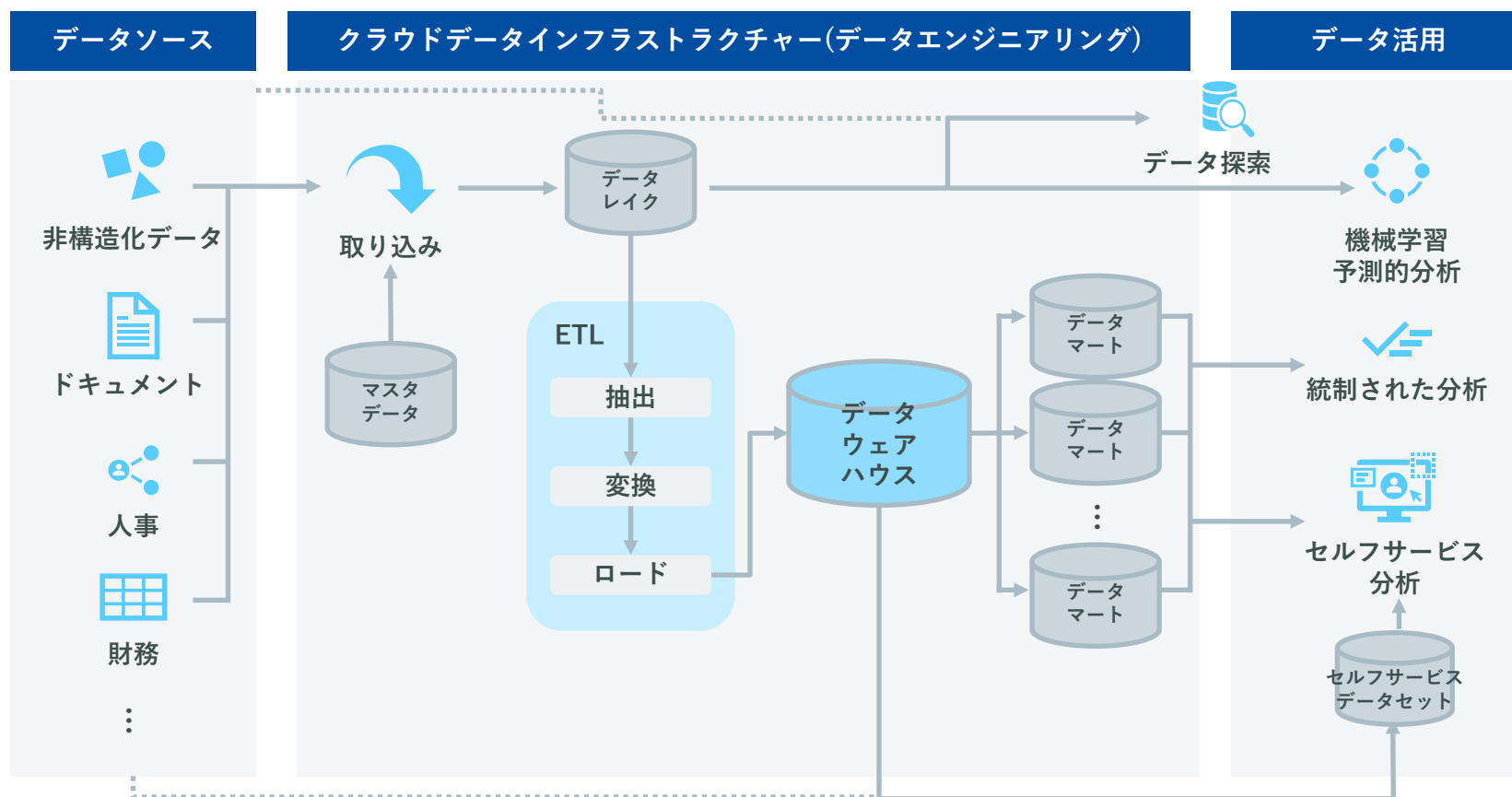
より業務に踏み込んだ活用

リアルデータと掛け合わせた  
発展的なアシスタント

ナレッジを活用した  
新たなサービスや業務の創出

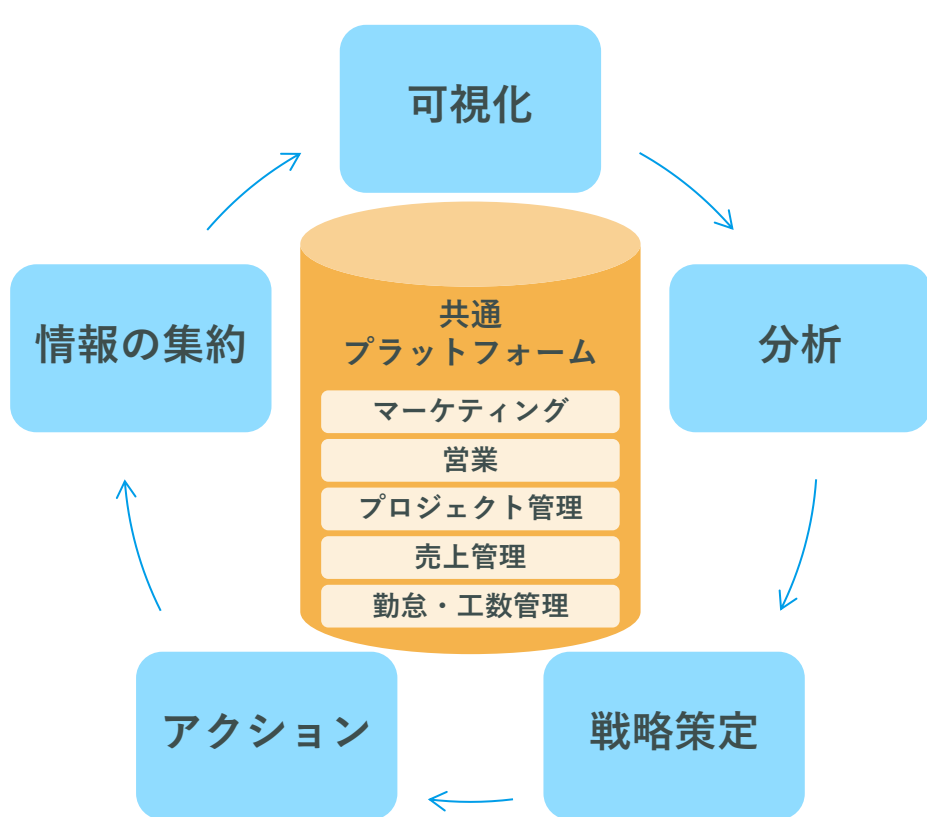
戦略② 事業で培った技術と知見の応用によるビジネス拡大  
施策4 データ活用支援サービスの創出

データ人材育成 × デジタルスキルによるモダンなデータプラットフォームの提供



## 施策5 全社プラットフォーム <顧客・営業・PJ管理基盤>

データドリブン経営へ、社内の共通プラットフォームを構築



### 顧客中心管理

顧客を軸にしたデータ管理基盤で顧客に寄り添う提案へ



### データに基づいた経営戦略策定

BIツールを活用し、データドリブンで戦略的な意思決定を促進



### データの集約・活用

社内の各種データを一元管理・連携し、活用できる情報を拡大



### 業務プロセスの仕組み化

業務の成功パターンを集約することで、社内の各部門の連携を活性化

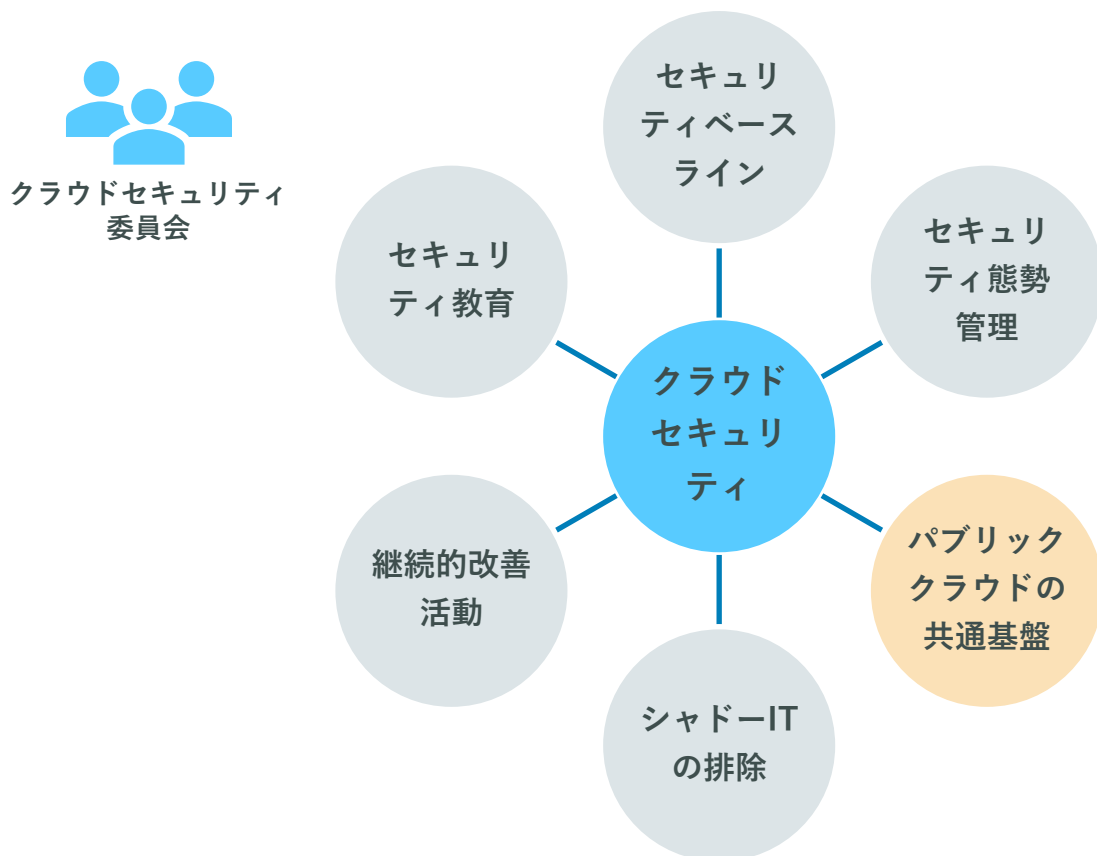


### 管理工数削減・生産性向上

プロジェクト管理や売上管理までシームレスに連携することで、管理者の負担を削減し、より生産的な活動へ

## 施策6 マルチアカウント統制 <セキュリティ>

クラウドセキュリティのルールを設定・徹底し、統制を効かせながらビジネス展開のスピード感を加速



### パブリッククラウドの共通基盤

一元化管理ツールによるクラウド環境の一括管理

セキュリティベースラインの備わったアカウントの自動構築

発見的統制と予防的統制の適用

クラウドアカウントと社員の基盤環境アカウントの連携

## 施策7 プラットフォームエンジニアリング < 共通開発基盤 >

社内の共有開発基盤を構築することで、ナレッジを集約・活用し、アジリティを高める



### アジリティ

構築済みの環境を活用し、開発に専念することで、技術活用スピードを向上

### 共通開発プラットフォーム



データ  
プラットフォーム



構築済み環境



生成AI



開発に専念



カタログ



自動マニュアル化



### ナレッジ 集約・活用

社内のナレッジを共有する仕組みを強化。生成AIを活用して、マニュアル化



### 育成

環境をラボとして活用することで、実践ベースの力の醸成

# Connect to the Future

JTP株式会社



© JTP Co., Ltd. All Rights Reserved.